令和７年７月３日発行

養徳寺だより

第76号

養徳寺　〒915-0824 福井県越前市武生柳町 4-33
TEL 0778-22-3889　FAX 0778-22-3859

●ホームページも、ぜひご覧ください。
「養徳寺だより」も見ていただけます。
養徳寺　検索

＜行事案内＞

夏季永代経	七月十三日（日）	午前十時
講話　当山　住職		
墓詣法要	八月十一日（月）	午前十時
法話　徳泉寺住職　藤下晃巌師		
夏まつり	八月十七日（日）	
研修旅行	十月十九日（日）（金沢方面）	

春季彼岸永代経法話
「永代経のこころ」

光照寺住職　佐々木淳師

永代経法要は、お経（＝み教え）の永代伝承に感謝し、この私がみ教えにあわせていただく法要です。

先人が苦労して相続してくださった大切なみ教えを、私達だけでなく子や孫、未来の人々へと聞き広めていく大切なご法縁でもあります。

善導大師（ぜんどうだいし）は、『往生礼讃（おうじょうらいさん）』に「願共諸衆生 往生安楽国」と繰り返されました。「みんないっしょにお浄土へ参りましょう」と何度も呼びかけてくださっています。

浄土真宗は、私独りが救われていく教えではありません。阿弥陀如来は、あらゆるいのちをわけ隔てなく救いとる仏様です。お念仏することは、如来のお心をいただくことです。「かならず助ける」という如来のお心をいただくのですから、「みんな一緒に参りましょう」と言わせていただけるのです。これは私達の甲斐性で言っているのではありません。

私達は、常に自己中心の都合から離れられませんが、お念仏の中に、如来のすべてのいのちに向けられた眼差しを感じ、あの人もこの人も先立って往かれた懐かしい方々とも、「みんなで」「共に」と言うことのできる心豊かな世界が開かれているのです。

せっかくいただいた一度しかない人生をしっかり生き抜いてほしい。だからこそ、大切なみ教えにであってほしい…というのが先人達の願いです。

永代経のご法縁をとおして、様々なご苦労を偲びつつお念仏申しましょう。

前坊守七回忌法要を勤めました

養徳寺住職　出雲裕樹

去る六月八日、私の祖母である前坊守 光壽院釋浄華（俗名 出雲冨士子）の七回忌並びに曾祖母である前々坊守 忍澄院釈貞俊の五十回忌を勤修いたしました。

親戚ご住職方ご出勤のもと、親類縁者、総代役員にご参集賜り、皆で二人を偲んでのお勤めでございました。

祖母は令和元年七月三十日に往生、猛暑の中での葬儀であったことを昨日のように思い出します。光陰矢の如し、それから早や六年が経過いたしました。

当人は大正十年、旧丸岡町正法寺に生をうけ、昭和十九年、二十三歳で縁あって当寺前々住職である祖父のもとへ嫁いでまいりました。戦後の苦しい時代から、祖父が往生するまでの約六十年間、ご門徒の皆さまに支えられながら、よく住職を助け、寺門の繁栄に努めました。

この間、よく聴聞の座に連なるとともに、特に門徒ご婦人方との「仏教婦人会」の活動に力をいれて勤しみました。お聴聞を大切にし、念仏の輪を広げようとした祖母の想いは、今も現在の婦人会「雛の会」に受け継がれています。

歳月を経るにつれ、個人との記憶も薄れ、また、その人となりを知る人も減ってまいります。しかし、祖母をはじめ、数多の先人たちが、み教えとともに養徳寺を守り続けてきたからこそ、今があります。祖母を偲んでお勤めさせていただく中で、あらためて学ばせていただいたご縁でありました。　合掌

福井へ電車でGO

小学四年　寺尾優星（清浄会の懇親会）（北岡さん孫）

五月十八日の日曜日におじいちゃんとお兄ちゃんと妹、そしてお寺の人たちと電車に乗って福井駅前のプラネタリウムを見に行きました。

ドーム型の建物があって「はやぶさ2」のかつやくを寝ながら見れて勉強になりました。お昼には中華料理屋さんへ入り、そうざいパンが美味しかったです。おじさんたちは色々話をしながらお酒や料理を楽しんでました。

駅前の恐竜ロボットがいくつもほえながら動いてすごかった。前で写真を撮ってもらいました。そしてハピリン広場のアスレチック遊具へ、ロープを腕だけで登るのがむずかしかったです。

帰りの電車ではおじさんたちとゲームなどをしているとすぐに武生に着きました。どうもありがとうございました。

花まつり

雛の会　山田洋子

今年も四月六日、養徳寺花まつりが行われました。前日まで春日和でしたのに、曇り空の冷たい風で冬に戻ったような日となり、白象さんに飾り付ける花が飛ばされないかと心配しながらのお手伝いでした。

また御堂にて一年に一度拝まさせて頂く誕生仏さま、甘茶、献花、お子たちの遊びコーナーなど清浄会、雛の会員で準備、セッティングしました。寒い日で心配でしたが、時間が迫るにつれ境内にはお子さん、家族の方たちが集まって下さりホッとしました。

清浄会の永谷さんの進行誘導で白象はお子さん達に引かれて雨にも遭わずに町内を回り、無事行進終了。あと参加者全員が献花、焼香、お釈迦様に拝礼、甘茶をかけ、甘茶を頂きました。

勤行のあと、住職様より天上天下を指さし、唯我独尊のお釈迦様のお誕生の花まつりについてのお話を聴きました。お釈迦様のお話は小さい頃、丈生幼稚園で花まつりのお祝いをしたことが思い出され懐かしいです。

その後、親子で塗り絵、ペーパークラフトなどを遊びコーナーで思い思いに楽しみ、お楽しみ袋と甘茶クッキー（とても美味しかった）を頂き花まつりは終わりました。

日頃静かな御堂にお子さん達が集まり、元気な声にほっこりのひとときでした。坊守様が風邪を引かれ、お姿が見えずさみしく気になりましたが、若坊守様のお気遣いされながら動いておられる姿に明るくなりました。嬉しい一日に感謝です。　合掌

◆俳句談義◆

登校のみどり目に沁む七曲り　潤子
天秤で風鈴の音を売り廻る　幸只
見栄も無く裏の十薬物語　貞子
ふるさとに笹百合揺らぐ季節かな　仙一
蛙鳴く酔ひの家路は遠かりき　栄雄
舞い上がれ輝く花粉金宝樹　千恵子
発掘の体験削がる夏の風邪　康男
香水やたはむれの恋通り過ぐ　啓治

養徳寺だよりでは俳句、川柳、短歌などを募集しております

こころの栞（しおり）

安野龍城句集『四谷柿』

千葉晃弘

当寺の報恩講や永代経法要に長らく法話にお招きした、専応寺の前住職の安野龍城師がこの度句集『四谷柿』（よたにがき）を上梓されました。境内にある百年を越える古木で、柿の実に四本の縦筋が入っていて、お彼岸の頃には必ず甘くなるが、お彼岸が終わると一旦渋柿になり、十月中旬にはまた甘くなるという不思議な柿です。生まれてからずっと、この柿の見えるいくつかの部屋で生活をして来ました。

お寺の前住職となられて、血液の病気に見舞われながらも、退院されて杖を突いて在所を巡り、俳句を作っておられました。先生職も、講師の肩書もなく無位無官の凡夫のまま、時々に思い当った諦観の句を纏めたものです。味わってみてください。

師の全快をお祈りしましょう。

【句集より】
仮の世や仮の世らしく合歓咲けり
六根のこゑ空めざす山開き
父遺す「不孤」の二文字夏座敷

【おしらせ】

●総墓の改修を進めております

▶令和七年六月二十日現在

総代責任役員
小林幸只
鯖江市紙町44号28番地

ろうそく・香・沈香・練香・念珠
小川竹風堂
☎0778(22)3192

仏壇・仏具・おすす出し
北荘仏壇店
鯖江市深江町10-4　☎0778(51)4476

Ys home
株式会社 ワイズホームサービス
越前市三ツ口町125-8　☎0778(43)5002

包丁・鎌・鋏・園芸用具・工具
刃物プラザミズカミ 水上仙助商店
越前市東千福町7-4　☎0778(22)1524

LPガス・灯油・給排水設備工事
株式会社 テクノ永谷
越前市国府2丁目12-7　☎0778(24)1868

墓碑・建築用石材
有限会社 増谷石材本店
越前市武生柳町6-2　☎0778(22)1148

東京海上日動代理店
㈱アシスト・タニグチ
タニグチ保険事務所
越前市南2-2-8　☎0778(22)2713